

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

本の世界がおもしろいのは、読めば読むほど自分は何も知らなかった！ということに気づかされることです。

～岩田徹著『一万円選書 北国の小さな本屋が起こした奇跡の物語』(ポプラ社) p.112～

## 1. ビタミンと栄養学を研究した女性化学者・丹下ウメ



日本女性科学者のバイオニア  
丹下ウメの軌跡  
(鷹川芳子著/文藝春秋)

白梅のように

化学者 丹下ウメの軌跡  
(鷹川芳子著/文藝春秋)

品切・絶版

栄養学は東都大学学生の皆さんにとって身近な学問の一つだと思われますが、病気と食事の関係を研究した歴史は古く、「医学の父」として知られる古代ギリシアの医師ヒポクラテスや「クリミアの天使」と呼ばれるイギリスの看護師フローレンス・ナイチンゲールも、それぞれの著書で治療における食事の大切さを述べています<sup>\*1</sup>。今回紹介する日本の女性化学者丹下ウメ氏は、ビタミンの研究に注力し、栄養学の発展に努めた人です。女性が学ぶことが困難であった時代に、栄養学を通して世の中の役に立ちたいと真摯に学んだ彼女は、幾多の師に恵まれ、道なき道を切り開きました。

1873年、ウメは鹿児島県で広く事業を営む裕福な家庭に生まれました。幼少期に不慮の事故で右目を失明してしまったウメは、姉の支えにより鹿児島県立師範学校の受験に挑戦して合格。首席で卒業後は小学校や技芸学校に勤め、充実した生活を送っていました。しかしこの頃から家運が傾き、将来に不安を感じたウメは、母方の親戚である前田正名氏<sup>\*2</sup>に相談し、前田氏や成瀬仁蔵氏<sup>\*3</sup>の援助を受けて、28歳の時に日本女子大学校<sup>\*4</sup>へ入学します。長井長義氏<sup>\*5</sup>のもとで大好きな化学を熱心に勉強したウメは、卒業後に長井化学教室の助手となり、1912年には(女性にも門戸が開かれた)文部省の中等化学教員検定試験を受験し見事合格。その後40歳を過ぎて、東北帝国大学理科学院に入学し日本初の女子帝大生<sup>\*6</sup>となったウメは、大学院、海外留学へと歩みを進めました。化学の応用である栄養学こそ女性として自分が研究すべき分野であると考えたウメは、48歳でアメリカへ留学。約8年にわたり4つの大学で学ぶ中、ジョンズ・ホプキンス大学で指導を受けたエルマー・マッカラム教授<sup>\*7</sup>の勧めで栄養学と生物化学の研究を進めたウメは、アメリカで理学博士の称号を受けます。帰国後は母校の教授を務めるとともに、理化学研究所の鈴木梅太郎氏<sup>\*8</sup>のもとでビタミンの研究を続け、68歳の時に東京帝国大学から農学博士の学位を受けました。79歳まで教壇に立ち、女性の理学教育をリードし続けたウメは、その生涯を83歳で閉じています。

\*1 ヒポクラテス著『古い医術について』、ナイチンゲール著『看護覚え書』 \*2 明治政府の官僚 \*3 日本女子大学創立者  
\*4 現在の日本女子大学 \*5 東京帝国大学教授、薬学者 \*6 日本初の女子帝大生は丹下ウメ、黒田チカ、牧田らくの3名  
\*7 ビタミンや微量元素の世界的な研究者 \*8 農芸化学者、ミネラルからビタミンを発見

## ◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

神経的のくだらぬ心配は健康上大害がある。

これを除くには學問を立脚地として、精神修養の功を積むほかはない。

〔渋沢栄一訓言集〕立志と修養



「学び知ることで、不安や心配は減らせる」という意味をもちます。人は悩みやすい生き物と言われますが、(変えることができない)過去を悔やんだり、(まだ起きていない)未来を心配したりすることは心身への負担がとても大きいそうです。(目の前にある)今に集中して学び、知識を増やし、経験を積めば、精神が強くなり、自分に自信が持てるようになるはずです。不安や心配が減れば気持ちも前向きになり、強くたくましい心で色々なことに挑戦していくかも知れません。

※格言は『渋沢栄一 100 の訓言』渋澤健著/日本経済新聞出版社 p.146より転載

## 2. 「ゆるくて優しい」本屋さんの物語

韓国・ソウル市内にある小さな書店を舞台に、店主や店に集う人々のささやかな毎日を描いた『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』。韓国で累計25万部を突破した心温まるベストセラー小説は、日本の2024年本屋大賞翻訳小説部門で第1位に輝きました。休みながら自分らしく生きていくことを主軸としたこの物語は、人々のささやかでゆるやかな交流が短い章立てで描かれています。物語に登場する、ヒュナム洞書店に通う人たちのそれぞれの悩みに共感するところもありますし、本を取り扱う側として勉強になることも多々ありました。頑張りすぎない励ましの言葉の数々にも癒されます。近所にあったら毎日通ってしまいそうなほど居心地のいい本屋さん。コーヒーもとても美味しい。



少し厚みのある本ですが、気を張らずにゆるやかな気持ちで読めます。心にぽっかりと灯りがともるような、優しい気持ちになれる物語です。

ようこそ、ヒュナム洞書店へ  
(ファン・ボルム著/牧野美加訳/集英社)

## 3. カナダで、がんになった。

直木賞作家・西加奈子さん初のノンフィクション『くもをさがす』。2021年のコロナ禍に、語学留学先のカナダで乳がんが見つかった西さんの、8か月にわたる治療の日々が綴られた作品です。カナダの女性医師や女性看護師の言葉が関西弁で書かれているのが印象的で、作品全体が悲觀の色に染まらず、ユーモアに溢れています。治療への不安や恐怖、カナダの医療体制下で思い通りにならないこと、目まぐるしく変わる体調や気持ち、日記に「しんどい」としか書けなかった日のこと、人が支え合う温かさ、自分と向き合う強さ…「書く」ことで西さん自身が自分を取り戻していくという記録は魂の深くまで響き、目が潤みます。治療や手術で容姿が変わっても、「私は、私だ。」と全身全霊をかけて綴る西さんの言葉は、読者に「自分を生きる勇気」を与えます。

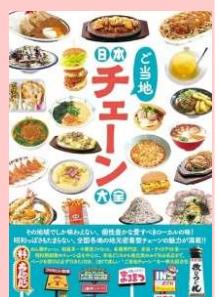


どこかにいる「あなた」に読んで欲しいという西さんの想い。一人でも多くの皆様に届きますように。

くもをさがす  
(西 加奈子著/河出書房新社)

## 4. 山田うどん食堂、日高屋、登利平、載ってます！

かつては“赤いかかしがくるくる回転する黄色い看板”が目印だった山田うどん食堂。現在、回転する看板があるのは埼玉県の越生店のみで、2018年には屋号を「山田うどん」から「山田うどん食堂」へ改名し、ファミリー層にも人気のチェーン店になりました。1964年に自社の製麺工場横に食堂を開いたところ、旨さと安さが評判になり、フランスチャイズ化を開始。名物の「パンチ」はいわゆるもつ煮込みで人気メニューのひとつになっています。



『日本ご当地チェーン大全』では、地域に根差した魅力いっぱいのローカルチェーン店70余店を紹介。埼玉県は山田うどん食堂のほかに、日高屋やぎょうざの満州、珈琲屋OBが、近隣県では登利平(群馬)やフライングガーデン(栃木)、ばんどう太郎(茨城)が紹介されています。料理写真がたくさん載っているので、空腹時にご覧になると余計にお腹が空いてしまうかもしれません。食の旅が楽しめる一冊。

日本ご当地チェーン大全  
(日本暮らし大全シリーズ編集部著/辰巳出版)

## 思い出の食べものはありますか?

管理栄養学部 安里 要



「こいしいたべもの」  
(森下典子著 / 文藝春秋)

「ショートケーキは背中から」  
(平野紗季子著 / 新潮社)

作ってくれた餃子、研究で悩んでいる時に恩師が連れて行ってくれた大学近くの中華料理屋の焼きそば、論文が通ったお祝いに研究室の皆で食べたケーキ、等々……さて、前置きが長くなってしまいましたが、今回私が紹介する図書は、食べものにまつわる思い出を綴っているエッセイ集です。

一冊目は、森下典子著『こいしいたべもの』(文藝春秋)です。柔らかなタッチの挿絵とともに情景が目に浮かぶような繊細な文章は、読んでいて温かい気持ちになります。身近な食べものと著者の思い出話を読むたびに自分の幼少期や青春時代の大切な記憶が蘇り、誰かと一緒に食卓を囲んだ時の幸せな気持ちを呼び起こすような一冊になっています。二冊目は、平野紗季子著『ショートケーキは背中から』(新潮社)です。こちらはどうやらかと言うと食レポに近い内容ですが、著者の豊富な語彙や言い回しのセンスが抜群で、勢いのある文章に飽きることなくページをめくってしまいます。また、食事に対する相当な情熱を感じられて読んでいるうちに元気が出てくる本です。そして、巻末の「食べものは形に残らないけど、かわりに思い出が残る。こうして思い出せる未来のあることが嬉しい。」という言葉がとても印象に残りました。

食べることは生きることであると言いますが、食物の栄養素が体の一部になるだけではなく、その思い出も私たちをつくっているのです。皆さんは忘れない思い出の食べものはありますか?自分の糧となるような「食」に関する大切な記憶を思い出させてくれて、美味しいものを食べて明日からまた頑張ろうという気持ちになるような本の紹介でした。

### ミロ展

太陽や星、月など自然の中にある形を象徴的な記号に変えて描き、詩情あふれる独特な画風が日本でも高い人気を誇るジュアン・ミロ(1893~1983)。スペインのカタルーニャ州に生まれたミロは、同郷であるピカソとともに20世紀を代表する巨匠として知られ、没後40年を迎えた今、その創作活動が世界的に再評価されています。90歳で亡くなるまで新しい表現へ挑戦し続けたミロの、70年におよぶ創作物を、東京都美術館で開催中の「ミロ展」でご覧いただけます。

ミロの代表作に挙げられるのが〈星座〉シリーズです。1940~1941年にかけて描かれた全23点は、1936年にスペイン内戦、1939年に第二次世界大戦が勃発する中、ミロが戦争という苦しい現実から逃避し、詩や音楽に触発されて生み出されたものです。現在、〈星座〉シリーズは世界中に散在しており、複数の作品が一堂に会することはなかなかないのですが、本展では、《明けの明星》《女と鳥》《カタツムリの燐光の跡に導かれた夜の人たち》の3点と一緒にご覧いただくことができます。また、1983年にミロが亡くなる直前に制作したのが、スペイン大使館観光部のロゴです。これはある芸術作品が一国を象徴するロゴとして使用された世界初の例で、太陽輝くスペインの魅力を簡明に伝えたミロの表現は、現在も政府の公式ロゴとして使用されています。



**作品:**《明けの明星》 1940年 クアッシュ、油彩、パステル/紙 ジュアン・ミロ財団、バルセロナ Fundació Joan Miró, Barcelona. Gift of Pilar Junco sa de Miró. © Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5746  
**会場:** 東京都美術館 企画展示室 〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36  
**アクセス:** JR上野駅「公園改札」より徒歩7分、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分、京成電鉄京成上野駅より徒歩10分  
**会期:** 2025年3月1日(土)~7月6日(日)  
**開室時間:** 9:30~17:30、金曜日は20:00まで(入室は閉室の30分前まで)  
**休館日:** 月曜日、5月7日水(※ただし、4月28日月・5月5日月・祝は開館)  
**入館料(税込):** 一般2,300円/大学生・専門学校生1,300円/65歳以上1,600円  
※大学生・専門学校生は、3月1日(土)~16日(日)に限り無料。※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料。※18歳以下、高校生以下は無料。※18歳以下、高校生・大学生・専門学校生、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください。  
**展覧会公式HP:** <https://miro2025.exhibit.jp/>  
**展覧会公式X(旧Twitter):** @miro\_tokyo2025  
**東京都美術館公式HP:** <https://www.tobikan.jp/>  
※最新の情報は展覧会公式HPをご覧ください。※画像の転載ならびにコピー禁止。

### ◊ ちょこっと図書紹介 ◊

個性の宝庫のようなトマト300種類以上の中から、選りすぐり50品種を掲載した『美しいトマトの科学図鑑』。副題に「東京大学の農場で野菜や果実を育ててみた」と付けられている通り、



著者の皆さん方が自分たちでトマトを育て、色や形、味を分析した、トマト愛に包まれた一冊です。みずみずしいトマトの写真を眺めるだけでも楽しめます。

お気に入りのトマトがきっと見つかりますよ。

### ◆ サイネリア ◆

冬から春にかけて景色を華やかに彩るサイネリア。英語名をシネラリアと言いますが、死を連想されることから日本ではサイネリアと呼ばれるようになりました。和名は落桜(フキザクラ)、富貴菊(フウキギク)。明るく色とりどりの花を咲かせる様子から「喜び」「いつも快活」という花言葉をもちます。



@2025 Kaori Nagatsuka

◊ 図書館からのお知らせ ◊ 令和6年度卒業する学生の皆様、そして保護者会の皆様から、在校生のためにお役立てくださいと、本と視聴覚機材をご贈いただきました。利用が多い分野の本や経年劣化により買い替えが必要であった視聴覚機材をお贈りいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。心より御礼申し上げます。大切に活用させていただきます。さて、ここからは休館のお知らせです。すでに掲示等でご案内していますが、2025年3月10日(月)~31日(月)は蔵書点検、館内整備のため図書館は休館です(ラーニングコモンズは通常どおり、ご利用できます)。蔵書点検とは、年に一度実施する「棚卸」のことで、バーコードリーダーで1冊1冊本を読み込み、本がなくなっていないか、正しい位置にあるかを確認します。意外と体力勝負の作業です。